

「イオン未来の地球フォーラム」



1 「イオン未来の地球フォーラム」とは

2月2日(土)、1年生6名が、東大安田講堂で行われた「イオン未来の地球フォーラム」に参加しました。このフォーラムは、地球と人間の間で起こっている様々な問題を解決するための方法を、子どもから大人、学生から科学者まで、世代や立場を越えた多くの方々と一緒に話し合い、明日へ繋がっていく社会を創り上げることを目的に、公益財団法人イオン環境財団、東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)、フューチャー・アースの共催で開催されているものです。著名な科学者や企業人が参加する中、パネルディスカッションの話題提供者の一員として、参加させていただくことになりました。



2 霧島の「自然の恵み」に関する話題提供

今回のテーマが「自然資本」であることから、本校生に課されたテーマは、霧島の「自然の恵み」に関する話題提供でした。6名の生徒は、霧島の水資源と地元企業の木質バイオマス発電事業に関する内容をまとめ、発表しました。わずか一ヶ月ほどの準備期間で、内容の深まりには限界がありましたが、居並ぶ著名人の中で物怖じせず堂々とした態度で発表し、話題提供者としての役割を全うした点で、高い評価を得ることができました。



3 サステナビリティの視座獲得をめざして

生徒たちは、本フォーラムに参加した方々の、本気で持続可能な社会の創造に取り組む真摯な態度、熱い思いを感じ取ることができ、大いに刺激を受けた様子でした。本校 S S H のテーマ「サステナビリティの視座もった科学系人材育成」に向けて、一歩前進させる大変有意義な体験をさせていただきました。



東京駅前写真撮影



話題提供のプレゼン



フォーラムの様子

地学班が最優秀賞

平成 30 年度 九州高等学校生徒理科研究発表大会



2月2日(土)～3日(日)に佐賀県で行われた、平成30年度九州高等学校生徒理科研究発表大会に、本校から、県代表として、物理・化学・生物・地学の理理科4部門ともに出場しました。



地学班の発表

各研究発表題目は、本通信第14号で紹介した鹿児島県大会のものと同様ですが、短期間でさらに内容を深めたものでした。その中で、「別府川河川敷で見つかった貝化石層の堆積環境を探る」という研究発表を行った地学班が最優秀賞を獲得しました。レベルの高い九州大会での最優秀賞は、本校理数科の悲願であっただけに、生徒・指導者とも大変喜んでおります。これからも、理数科生が互いに切磋琢磨しながら、さらなる研究成果をあげることが期待しています。

